

本書を発刊するにあたり

上顎総義歯の吸着が達成された後、自然の流れとして切望されたのは、下顎総義歯の吸着であった。

そこで、1999年に阿部二郎氏が世界に先駆け、「下顎総義歯の吸着のメカニズム」を理論的にまとめ上げ公表した。

臨床において、その理論に基づき総義歯を製作すると、確かに多数の症例で下顎の吸着が可能となった。

上下顎の総義歯が吸着すると、安心して会話が楽しめ、食卓のバリエーションが豊かになり、食事もリズムカルにできるので、家族や友人との団らんが輝いたものとなる。

公表から15年の歳月を経た現在、この理論は、日本全国、そして世界に広まりつつある。

筆者は不肖ながら、ハンズオンセミナーや学会、歯科医師会等で講演をさせていただいているが、上顎総義歯と同様に、保険・自費にかかわらず大多数の症例で、下顎総義歯が吸着することがスタンダードな時代が目の前にきているとひしひしと感じている。

下顎総義歯吸着の“夜明け”である。

そこで今回、「下顎総義歯吸着システム」のコンセプトとメカニズムを私なりに咀嚼してわかりやすく解説し、初めて吸着義歯を臨床に取り入れたい先生方に適した製作法をご紹介させていただいた。

また、吸着が得られなかった症例に対する対処法にも言及した。

世界中の無歯顎患者を笑顔にして差し上げるお手伝いになれば幸いである。

2014年7月  
佐藤勝史